

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責:辻谷太・岡本広世・橋本真季

vol. 17 2025. 2. 5

令和6年12月7日に当院の災害対策訓練を実施しました。今回の訓練は、奈良盆地東縁断層帯を震源地とした最大震度7の地震が発生した（当院周辺は震度6強）という想定で行いました。このような地震などの大災害の場合にも、当院は災害拠点病院として、病院機能を維持し、できる限り多くの傷病者を受け入れる役割があります。そのため、訓練を定期的に行い、災害へ備える必要があります。また、災害時には県庁や市役所などの行政、消防や地域の医療機関との連携が非常に重要で、「平時からの顔の見える関係性づくり」は、災害医療における課題として、いつもあげられています。今回、生駒市役所、生駒消防、西和地域の病院へお声がけさせていただき、下記の方々に参加いただくことができました。普段は、働く場所も職種も違いますが、それぞれが協力して訓練を行うことができましたので、報告させていただきます。

- | | | |
|-------------|-----------|----------|
| ・生駒市役所 | ・西和医療センター | ・東生駒病院 |
| ・生駒消防 | ・阪奈中央病院 | ・田北病院 |
| ・奈良県看護協会 | ・倉病院 | ・奈良厚生会病院 |
| ・奈良学園大学（学生） | ・生駒市立病院 | |

災害対策本部訓練

災害対策本部は本部長を筆頭に、診療・病棟統括、職員管理、記録、外部調整、施設用度といった役割に分かれ災害時の対応を行います。当院は災害拠点病院ですので、災害が発生した際にはトリアージエリアでの訓練のように、多数傷病者受け入れを行うことが予想されます。

傷病者を受け入れるといっても、受け入れた後に必要な処置ができない状態であれば最悪の事態にもなりかねません。そのため、緊急時は、自院がどれくらいの被害があり、診療機能がどのような状態なのかを早急に正確に把握する必要があります。

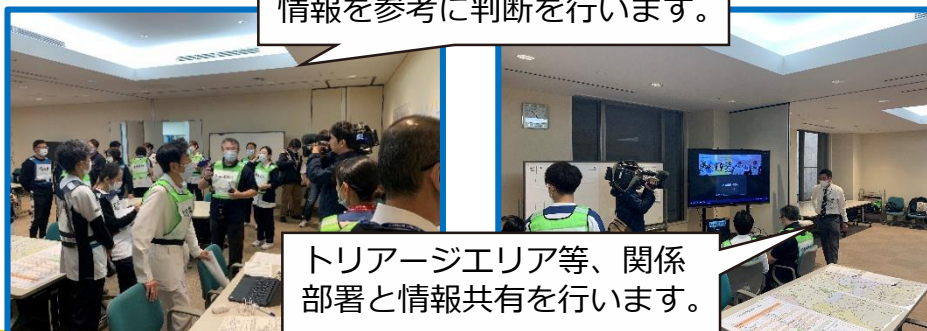
当院では、発災後は患者の受け入れに備え、各部署が本部へ被災状況報告書（それぞれの部署の患者、職員、医療資機材の破損などを記載する用紙）を提出し、本部が全体の被害状況を確認し、通常通りの診療が可能なのかを把握することから始まります。同時に、被災地の医療ニーズの情報収集を行い、どのような患者がどのくらいの人数いるのか、手術が必要な患者がいる場合は、手術室をいくつ稼働できるのか、入院が必要であれば、必要な対応ができる病室を必要数空けることができるか等を把握する必要があります。収集した情報を記録係が分かりやすくまとめ、診療・病棟統括が把握し、また外部調整係が収集した医療ニーズ等を踏まえて本部長が今後の方針を決定していきます。またニーズは常に変化していくので、情報収集→評価→判断を繰り返していきます。病床数が不足するようであれば増床といった対応も必要になりますし、それでも足りなければ、自宅に帰ることができる入院患者には早期退院していただき、空床を確保するような対応も必要になるかもしれません。災害時にはその時の状況に合わせて柔軟に対応することが求められます。

災害時には、このように通常とは異なる、災害対策本部といった組織を立ち上げ運用していきます。平時ではあまり直接的にかかわらない職員同士で協力することもあります。そのため、病院内においても「平時から顔の見える関係性」は重要です。今回、生駒市役所や他施設の方々にも本部訓練へ参加いただき、災害時の対応について一緒に考えることができました。今後も、災害拠点病院として、病院内外を問わず、西和地域全体を巻き込んだ訓練を行い、地域の災害対応力の向上に努めてまいります。

収集した情報を記録係が見やすくまとめます。



情報を参考に判断を行います。



トリアージエリア等、関係部署と情報共有を行います。

多数傷病者受け入れ訓練（トリアージエリア）

災害時には、できる限り多くの傷病者の治療を行うため、治療の優先順位を決めるトリアージを行います。多数の傷病者が来院されることを想定して、2階正面玄関にトリアージエリアを設営し、訓練を行いました。

傷病者が搬送されてくると、症状やけがの程度を聞き取りながら、治療の順位を決めるトリアージを実施します。



生駒消防やDMATの指導を受けながら、看護学生もトリアージを実施しました。また、今回の訓練には、NHKのテレビ取材が入り、夕方のニュースに取り上げていただきました。



災害時には、ネット環境を整えることも非常に重要です。今回の訓練では、トリアージエリアと災害対策本部との情報共有にZOOMを活用しました！



このように多数の傷病者が来院される場合には、ICU・救命救急センターのベッドの確保が急務となります。院内の入院ベッドの増床や入院患者さまの病院内での移動や被災していない病院への転院、退院等を行い、できる限り多くの傷病者を受け入れられるよう調整を行います。

訓練には98人が参加しました。今回の訓練を今後の災害対策へつなげるため、訓練終了後に参加者全員でミーティングを行いました。

今回の災害訓練で得た教訓を生かし、災害に強い病院を目指していきます。みなさまご協力おねがいします！

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
（患者さまの声は、1階エスカレーター前、2階再診受付機脇、各デイルームに設置しています。）